

## 青森県立中央病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。  
 本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	腿膝窩動脈病変に対する薬剤溶出性バルーンと薬剤溶出性ステントの治療成績比較
当研究の主任研究者 (所属)	曾我 芳光(小倉記念病院循環器内科) 飯田 修(関西労災病院)
当院の研究責任者 (所属)	櫛引 基(循環器科)
本研究の目的	<p>症候性末梢動脈疾患 (PAD: peripheral artery disease)の主病変は、大腿膝窩 (FP: femoropopliteal)動脈領域に局在することが多く、薬物・運動療法が第一選択治療であるが、治療抵抗性症例に対しては血行再建術が検討される。実臨床では血管内治療 (EVT: endovascular therapy)の治療戦略として、薬剤溶出性バルーン (DCB: drug-coated balloon)と薬剤溶出性ステント (DES: drug-eluting stent)が使用されることが多い。</p> <p>本研究の目的は、実臨床におけるDCBの治療成績を明らかにする目的で行われた「大腿膝窩動脈病変を有する症候性閉塞性動脈硬化症患者に対する薬剤溶出性バルーンを用いた末梢血管内治療に関する多施設前向き研究」(POPCORN: PrOsPective multiCenter registry Of dRug-coated ballooN for femoropopliteal disease)と、実臨床におけるDESの治療成績を明らかにする目的で行われた「大腿膝窩動脈病変を有する閉塞性動脈硬化症患者に対するパクリタキセル薬剤溶出型末梢ステントを用いた血管内治療に関する多施設・前向き研究」(CAPSICUM: Contemporary outcomes After Paclitaxel-eluting peripheral Stent implantation for symptomatic lower limb IsChemia with sUperficial feMoral or proximal popliteal lesion)の2つの臨床研究のデータベースを用いてFP病変に対するDCBとDESの治療成績を比較検討することである。</p>
調査データ 該当期間	施設長許可後から2020年6月まで
研究の方法	<p>●対象となる患者様 上記期間内に大腿膝窩動脈病変を有する症候性閉塞性動脈硬化症の患者に対して、薬剤溶出性バルーンまたは薬剤溶出型末梢ステントを用いた血管内治療を施行することが医学的に最適な医療行為であると判断され、実際に治療を行った患者</p> <p>●利用する情報 電子カルテに記載のある診療情報  <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者基本情報(治療日や病変情報など)</li> <li>・患者背景(性別や併発疾患など)</li> <li>・病変背景(病変の部位や性状など)</li> <li>・治療情報(治療内容、手技時間など)</li> <li>・追跡情報(治療後の経過など)</li> </ul> </p>
他の医療機関への 資料の提供	本研究では試料(採血など)は取り扱いません
個人情報の取り扱い	研究に用いられる情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除致します。 また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際にも患者様を特定できる個人情報は利用しません。
研究費用と研究者等の利益 相反の状況	本研究は、医師主導型の臨床研究であり、企業や他の団体から資金提供を受けて行うものではありません。 本研究は通常の保険診療内で行われます。本研究の実施中に健康被害が生じた場合、研究担当医師は速やかに適切な治療、その他必要な措置を講じます。ただし、提供される治療には健康保険を適用し、金銭での補償は行わない。
お問い合わせ先	循環器科:櫛引 基 電話番号:017-726-8111(代表)